

地震一口メモ No. 214

日頃からの備えを再確認

被害を軽減するために日頃からできることを行いましょう

新年度が始まり、新たに大阪府へ移り住まれた方、学校や勤務先が変わった方などいらっしゃるかと思います。これを機会に、自宅や学校、勤務地のハザードマップの確認、避難場所までの経路、家族との連絡方法の確認、家具の固定や持ち出し品の準備などの日頃からの備えを今一度確認しましょう。

自宅や学校、職場周辺などで津波に襲われるおそれのある場所を、ハザードマップや周囲の地形から確認しておきましょう。津波浸水ハザードマップは、津波により浸水が想定されている区域と浸水深を示した地図で、各都道府県や市町村のHPまたは国土交通省のHPから確認できます。また、避難経路の安全や避難場所を確認しておきましょう。ブロック塀や自動販売機などの倒壊、看板や割れたガラスの落下のおそれがなく安全に避難できるか、避難場所への道順と避難経路での危険箇所を確認しましょう。

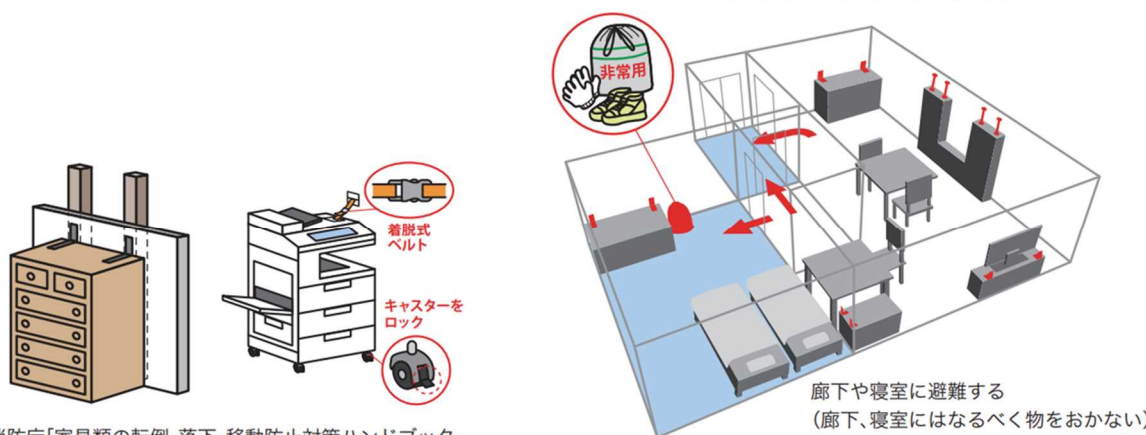
住宅や建造物の耐震化を行い、ガラスには飛散防止フィルムを貼るなど、日頃から家の中の安全対策を行いましょう。家具を固定し、万が一倒れてきた場合でも、通路をふさがらないような配置を考えましょう。ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間、安全スペースを作り、揺れを感じたときは安全スペースに移動し、揺れがおさまるまで身の安全を守りましょう。

大災害により電気や水道などのライフラインが止まっても、ある程度は自力で生活できるよう、水や食料などを備蓄しておきましょう。自宅が被災して避難所で過ごさなければならない場合に備え、必要なものをリュックサックなどに詰めいつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。また、通信回線が使えなくなっても、家族と合流できるように、待ち合わせ場所や非常時の連絡方法などについて話し合っておきましょう。経験したことがないことや想定外のことに、とっさに適切な対応をとることは難しいです。その場その時に合わせてどのような行動をとるべきかあらかじめ想像し、日頃からの備えを今一度確認しましょう。

気象庁 HP 地震から身を守るために：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/jishin_bosai/index.html

安全スペースには、厚手の手袋、底の厚い靴を用意しておく



安全スペースのイメージ(共同住宅の例)

図：パンフレット「新しい緊急地震速報」(気象庁発行)より

地震はいつどこで発生するかわかりません
いざというときに身を守るために、日頃から備えておきましょう